



ずうたいは、

大きくなった了屯りょうとんだったが……。

「はっけようい のこった のこった。」

「えーい やー——。」

「あー いてててててー

いたいよう いたいよう

えーん えーん。」

了屯りょうとんはいつもまけてばかり

「やーい やーい また了屯りょうとんが泣ないたぞう。」

悪わるがきどもがはやしたてた。

了屯りょうとんは悔くやしくて 悔くやしくてたまらなかつた。





「ようし 今いまにみている きっと 強つよくなるぞ。」

了屯りょうとんは、毎日まいにち毎日まいにち

庭にわにある大きな石いしを、

日ひに何なん十じゆぺんも 持もち上あげて

体からだをきたえたそうじや。





ますますからだ体がおお大きくなつて

若者わかものになつた了屯りょうとんは、

「えつさ ほいさ えつさ ほいさ。」

「おー、了屯りょうとんはすごいちからものう。力持ちからちじゃちからのう。」

えんぼうかつを担かつげば、野菜やさいもお米こめも、

人ひとの三倍ばいぐらいほこ運ほこんで、村人むらびとたち達は、おどろいた。

そうして、みるみるうちに、

仕事しごとは、はかどつていった。